

IX とこしえに立つダビデの王座

Ⅱ サムエル 7:8～17

7:8 今、わたしのしもべダビデにこう言え。『万軍の【主】はこう言われる。わたしはあなたを、羊の群れを追う牧場から取り、わが民イスラエルの君主とした。

7:9 そして、あなたがどこに行っても、あなたとともにいて、あなたの前であなたのすべての敵を絶ち滅ぼした。わたしは地の大いなる者たちの名に等しい、大いなる名をあなたに与えてきた。

7:12 あなたの日数が満ち、あなたが先祖とともに眠りにつくとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子をあなたの後に起こし、彼の王国を確立させる。

7:13 彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。

7:16 あなたの家とあなたの王国は、あなたの前にとこしえまでも確かなものとなり、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。』

はじめに

シリーズ第8回目の今回は「あがないの契約」の歴史の最後である「ダビデ契約」からイエス・キリストによる神の贖いの契約の完成につながる関係性を申し上げたい。今日のテキストⅡサムエル7章8節から17節は預言者ナタンによる主の契約である。これを受けて、ダビデの祈りが7章の終わりまで続いている。

1. ダビデ契約（王国の契約） Ⅱサムエル記7：8～17

「神のあがないの契約」は、旧約聖書時代において、最終段階を迎えている。それが、今回のダビデ契約にあたるのである。その別名を「王国の契約」と呼ぶ。

(1)ダビデ契約の経緯

① 契約締結の準備

★ダビデがヘブロンでユダの王となり7年6か月治めた。「ダビデは三十歳で王となり、四十年間、王であった。ヘブロンで七年六か月ユダを治め、エルサレムで三十三年イスラエルとユダの全体を治めた」（Ⅱサムエル5：4～5）

ダビデはますます大いなる者となり、万軍の神、【主】が彼とともにおられた。（Ⅱサムエル5：9～10）全国家統一の開始である。

★神の契約の箱をエルサレムに迎えた。エルサレムを神の王座と結びつけるためである。（Ⅱサムエル6：12～15）。

★イスラエルの統一王国の確立と安息と安定 Ⅱサムエル7：1

②ダビデ契約の本質は、神がともにいること

★荒野の幕屋時代、神は民とともにさまよった。「わたしは、エジプトからイスラエルの子らを連れ上った日から今日まで、家に住んだことはなく、天幕、幕屋にいて、歩んできたのだ」(Ⅱサムエル7:6、Ⅰ歴代17:5参照)。

★ダビデ契約の中心には、インマヌエルの原理がある。(Ⅱサムエル7:1~5)。

(2) ダビデ契約の締結 (聖句引用は冒頭などに記述)

① 創造主が主権的にダビデの王国を建て上げる Ⅱサムエル7:12

②ダビデが神の家を建てるのではない Ⅱサムエル7:5

「行って、わたしのしもべダビデに言え。『【主】はこう言われる。あなたがわたしのために、わたしの住む家を建てようというのか。』」

③ダビデ王国はとこしえの王国である Ⅱサムエル7:13~16

④創造主が王の父となり王が創造主の子となる Ⅱサムエル7:14

★ダビデ自身の告白 「私は【主】の定めについて語ろう。主は私に言われた。
『あなたはわたしの子。わたしが今日あなたを生んだ』」(詩篇2:7)。

★新約聖書の証言 「この福音は、神がご自分の預言者たちを通して、聖書にあらかじめ約束されたもので、御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、聖なる霊によれば、死者の中からの復活により、力ある神の子として公に示された方、私たちの主イエス・キリストです」(ローマ1:2~4)

★イザヤのメシア預言 「ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる」(イザヤ9:6)。

2. ダビデ契約から「あがないの契約」の完成に向かう過程

(1) 契約仲介者としての王の務め

ヘブロンで王として戴冠した時「ダビデ王はヘブロンで、主の御前に彼らと契約を結び、彼らはダビデに油を注いでイスラエルの王とした」(Ⅱサムエル5:3)。イスラエルの王となるということは、主との契約関係に入ることを意味する。

また、国家のかしらとして、民に対して神との契約を仲介する働きが求められる。その事例を次にあげる。

①ヨシヤ王の改革 契約の書が発見されたとき、ヨシヤは率先して民の前に立ち、民を一堂に集め、律法を読んで、契約を結んだ。(Ⅱ列王記23:1~3)。

②ゼゼキヤ王 ネブカドネツアル侵攻の危機に際して、契約仲介者として働いた。王は、エルサレムの全住民とともに契約を結び、モーセの律法への服従を誓った。(エレミヤ34:8~10)。

★王は、契約仲介者として民に対する契約において神を代表し、また、神に対して民を代表する二重の務めを果たした。この、祭司と仲介の役割がイエス・キリストに

引き継がれる。

(2) **ダビデ契約の二つの約束**

① **ダビデの家系に関する約束とその結果**

ダビデ王朝の歴史は列王記に記されている。ダビデの死後、その子ソロモンは主の王座に就き、父ダビデに代わって王となった（Ⅰ歴代 29：22～23）。神はその約束通り、罪を犯したソロモンを懲らしめ、ソロモンの死後王国は二つに引き裂かれた（Ⅰ列王 11：11）。その裁きの宣言は、ダビデとエルサレムのために、ダビデの家系を受け継ぐ一つの部族を残すという、めぐみ深いものであった（同 11：13、32）。それは、南ユダ王国をソロモンの子レハブアムが継承し（同 11：42）、北イスラエル王国はヤロブアムが治めた（同 12：12～15）。

② **エルサレムの都に関する約束とその結果**

ソロモンの罪の懲らしめの時、「わたしの名を置くために選んだ都エルサレムで、———わたしの前にいつも一つのともしびを保つためである」（Ⅰ列王 11：36）。この約束は、ソロモンの子レハブアムが王となった時にも繰り返されていた（Ⅰ列王 14：21）。

やがて、レハブアムの子、アビヤムが罪を犯した時にもその約束は貫かれたのである（Ⅰ列王 15：4）。さらに時代が下り、ヒゼキヤ王の治世にアッシリアの包囲の危機迫る中で、預言者イザヤはこの約束を宣言してヒゼキヤ王を安心させたのである。「わたしはこの都を守って、これを救う。わたしのために、わたしのしもべダビデのために」（Ⅱ列王 19：21）。

しかし、こののちユダ王朝を引き継いだ悪王マナセは、偶像アシェラの祭壇を築いた。（Ⅱ列王 21：7）。その恐るべき罪のゆえに、神はついに、聖なる都エルサレムを破滅させたのである（Ⅱ列王 23：27）。

(3) **ダビデ契約は条件付きか無条件か二つの要素がある**

① 一つは、無条件的にダビデの王国をたて、その王座はとこしえまでも堅く立つという契約であった。（Ⅱサムエル 7：11～13）

② 他の一つは、条件付きでダビデの王国を継ぐダビデの子孫たちが神の掟と定め
に不服従で、不義を行うとき懲らしめるという警告である（Ⅱサムエル 7：14）

③ しかし、それにもかかわらずサウル王の王国のように取り除かず、ダビデの王座はとこしえまでも堅く立つことを約束されている（Ⅱサムエル 7：15～16）

④ その後、歴史はサウルの家である北王国は、度重なる偶像崇拜の罪を繰り返し、神の契約のことばに基づき裁きが執行され、繰り返して厄災後もたらされた。

しかし、南ユダ王国では、ダビデの家系が途切れることなく、神によって維持されたのである。

⑤ ユダ王国も最終的な義なる神の裁きを受け滅びるのであるが、最後の王エホヤキンはバビロンの王によって牢獄から解放され、高い地位を授かり、いのちある限り

王の面前で食卓にともにつくことを許されたと記して、列王記は静かに、将来への希望を予感させつつ歴史の幕を閉じるのである。(Ⅱ列王 25：27～30)

むすび

「はじめに」で述べたように、最後にもう一度サムエル記Ⅱの7章に戻る。

ユダ王朝歴代の王の中に、神への驚くべき反逆が繰り返されたにもかかわらず、Ⅱサムエル7章29節の「あなたのしもべの家がとこしえに祝福されますように」とのダビデの祈りを神は聞かれたのであった。

それは千年前のアブラハムへの契約の約束の地が、ダビデにおいて文字通り実現されており、「とこしえまでも」という、遠い未来の繁栄の約束も現実味を帯びてくるのである。ダビデから300年後に「一人の嬰兒が、私たちのために生まれる。——」(イザヤ9：6, 7)との預言が響き渡り、さらに100年後エレミヤの預言につながっていく。「見よ、その時代が来る。——【主】のことば——そのとき、わたしはダビデに一つの正しい若枝を起こす。彼は王となって治め、栄えて、この地に公正と義を行う」(エレミヤ23：5)。

まさに、ダビデから千年後おとめマリアはみ使いの声を聴いたのである。「見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません」(ルカ1：31～33)。キリスト者は無条件付きの救いをいただいた。この恵みの契約を子どもたちに述べ伝え、受け継がせていただきたい。今つながっていなくても望みを失わないで主の恵みを伝え続けよう。

イエスの到来を迎えたカナンの女や盲人たちは「ダビデの子よ」と口々に叫び、ロバの子に乗ってエルサレム入城されるイエスに向かって「ダビデの子にホサナ」と悦び迎えた。聖書の終わりの黙示録にイエスを「ダビデの根」と呼んでいる。(黙示5：5)。「わたしイエスは御使いを遣わし、諸教会について、これらのことをあなたがたに証しした。わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である」(黙示22.16)。